

# 歳出を町民一人あたりで見ると

区分 金額 一人あたり金額 (前年比)

区分 金額 一人あたり金額 (前年比)

■民生費 17億8,634万円 114,122円(+15,483円)

高齢者や障がい者への福祉増進に努めるとともに、保育所の環境改善・機能強化、子育て支援拠点施設の整備運営に向けた検討を開始しました。また、中学生までの医療費の自己負担を無料とする「しらたか元気っ子事業」などを行いました。

■土木費 9億5,435万円 60,969円(▲8,554円)

町道の改良や維持工事のほか、国・県道の幹線道路網の整備に努めるとともに、冬期間の交通確保のため、老朽化した歩道除雪機を更新しました。また、繰越事業として、四季の郷住宅団地の整備を行いました。このほか、下水道特別会計への繰り出しなどを行いました。

■衛生費 5億1,435万円 32,859円(▲2,186円)

健(検)診事業をはじめとした健康づくり対策、妊婦さんの通院支援としての「ニコニコマタニティライフ応援事業」などの出産・子育て支援のほか、子宮頸がん予防ワクチン接種などを行いました。また、ごみの減量化やエコドライブ普及員の養成などを通じ、地球環境保全・温暖化対策を推進しました。

■教育費 6億8,070万円 43,487円(▲5,471円)

学校教育では、「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を育むためのさまざまな取り組みのほか、スクールバス車庫新築や学校施設の整備を行いました。また、「荒砥高校をサポートする会」を設立し、荒砥高校の存続に向けた取り組みを行いました。生涯学習・スポーツでは、各種講座や大会を開催し、地域づくり活動や生涯学習・生涯スポーツの推進に努めました。芸術文化面では、「あゆむ」において各種公演や展示などを実施し、多くの方々に来場いただきました。

■農林水産業費 3億3,343万円 21,301円(▲3,319円)

地域農業活性化センターによる農業者支援や遊休農地の解消及び集落営農の推進などのほか、土地改良区の合併推進、松くい虫防除事業などの実施による森林環境保全などに取り組みました。このほか、口蹄疫や猛暑、豪雪といった災害などの被害に対する支援を行いました。

■公債費 12億8,771万円 82,266円(▲7,661円)

建設事業などを行うために借り入れたお金の返済などに使われました。新たな借入れについては「公債費負担適正化計画」を策定し借入額の抑制に努めています。

■商工費 2億5,423万円 16,242円(+3,794円)

経済不況が続く中で、工業では、金融対策や雇用維持支援、受注拡大などに取り組みました。商業では、商工会のプレミアム商品券の発行や住宅改築等への給付金交付事業に対する補助など、町内の消費拡大を支援しました。観光面では、観光4シーズン化事業や、観光施設の整備などに取り組みました。

■その他 17億 290万円 108,791円(▲4,699円)

総務費では、町の第5次総合計画の基本計画の策定をはじめとして、長井線やデマンド型交通システムなどの交通対策、交通安全・防犯対策、財政調整基金の積立などを行いました。消防費では、自主防災組織への支援のほか、消防第1分団の消防ポンプ自動車、防火水槽などの施設整備を行いました。これらのほか議会費、労働費、災害復旧費に使われました。

※町民一人あたりの金額は、平成23年3月31日現在の町の住民基本台帳人口15,653人で割ったものです。

財政の早期健全化及び財政の再生並びに公営企業の経営の健全化を目的として制定された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、健全化判断比率及び資金不足比率について公表が義務付けられています。いずれかの比率が早期健全化段階や財政再生段階(将来負担比率を除く)の基準値以上になった場合には、それぞれ法で定められた計画の策定を行い、財政の健全化を図ることとなります。平成22年度決算に基づく白鷹町の状況は下記のとおりすべて基準を下回りました。引き続き財政の健全化に取り組みでまいります。

実質公債費比率・将来負担比率とも改善！  
平成22年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率を公表します

## ◆健全化判断比率について (単位：%)

比率名	本町の状況	早期健全化基準	財政再生基準	参考：昨年度の状況
実質赤字比率	— (赤字なし)	14.79	20.0	— (赤字なし)
連結実質赤字比率	— (赤字なし)	19.79	35.0	— (赤字なし)
実質公債費比率	17.0	25.0	35.0	19.1
将来負担比率	85.3	350.0		105.1

## ◆公営企業における資金不足比率について

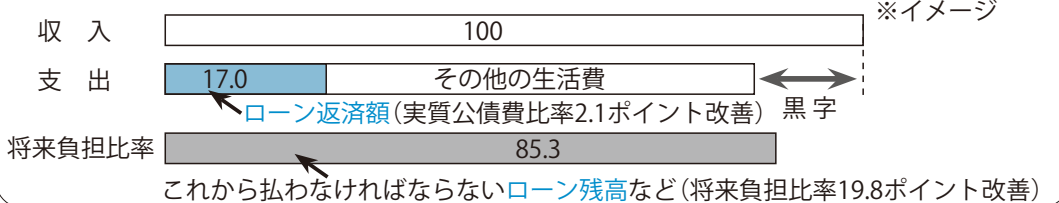
公営企業ごとに、資金の不足額が事業の規模に対してどれくらいの割合になっているかを示しています。水道、町立病院、訪問看護ステーション、下水道、農業集落排水の全会計について、資金不足は発生していないため比率はありません。

## ◆それぞれの比率を家計に例えると…

町の財政状況について、一般家庭の家計に例えることは、多少の無理がありますので、あくまでイメージとしてご紹介します。

- ◇実質赤字比率 : 1年間の家計に占める赤字の割合
- ◇連結実質赤字比率 : 2世帯住宅などの場合、それぞれの世帯の家計を合算した家族全体での1年間の家計に占める赤字の割合
- ◇実質公債費比率 : 年収に占めるローン返済額の割合
- ◇将来負担比率 : ローン残高や生命保険の支払いなどが年収の何年分に相当するかを示した割合

ある家庭の1年間の収入(100)に当てはめると



※健全化判断比率などに関する詳しい内容は、町のホームページをご覧ください。